

# わとく地域支援センターだより

平成28年4月、学校園においては、障害のある児童生徒等の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁（制度や慣行など）の除去の実施について、必要かつ合理的な配慮を提供しなければならなくなりました。本人や保護者とお子さんへの配慮について、しっかりと話し合い合意形成をしていくことが大切です。既に配慮されていることも多いと思いますが配慮事項の実践例を紹介します。

## 合理的配慮の具体例



### \* 物理的環境への配慮や人的支援の配慮の具体例

- ・ 配架棚の高い所に置かれた図書や教材教具等を取って渡すこと。
- ・ 聴覚過敏の児童生徒等のために教室の机・椅子の脚に緩衝材を付けて雑音を軽減すること。  
椅子の脚に使い古しのテニスボールを付けると、クッション効果もあり効果的です。
- ・ 視覚情報の処理が苦手な児童生徒等のために黒板周りの掲示物等の情報量を減らすこと。

### \* 意思疎通の配慮の具体例

- ・ 知的障害のある児童生徒等に対し、抽象的な言葉ではなく、具体的な言葉を使うこと。例えば、「ちょっと待って！」は「あと〇分（秒）だけ待ってね。」など、具体的な数字などを伝えることが大切です。
- ・ 比喩表現等の理解が困難な児童生徒等に対し、比喩や暗喩、二重否定表現などを用いずに説明すること。例えば、「ちょっと耳を貸して！」は耳を取って貸すなんてできないよ！と思わせます。「内緒の話をするから聞いてね。」と伝えるとわかり易いです。
- ・ 多様なコミュニケーション手段やわかり易い表現を使って説明をする等の意思疎通の配慮を行うこと。  
絵カードや ICT ツールを活用するなどが考えられます。但し、一方的なこちらからの指示ツールにならないように、導入環境やルール作りなどが大切です。

### \* ルール・慣行の柔軟な変更の具体例

- ・ 黒板やスクリーン等がよく見えるように、黒板等に近い席を確保すること。  
その子が特別扱いにならないようにクラス内で話し合いをしたり、ルールを決めることが大切です。
- ・ 肢体不自由のある児童生徒に対し、体育の授業の際に、上・下肢の機能に応じてボール運動におけるボールの大きさや投げる距離を変えること。
- ・ 慢性的な病気のために他の児童生徒と同じように運動ができない児童生徒等に対し、運動量を軽減したり、代替できる運動を用意したりすること。
- ・ 入学試験や検定試験において、公平性を担保する範囲内で、本人・保護者の希望、障害の状況等を踏まえ、例えば別室での受験、試験時間の延長、点字や拡大文字、音声読み上げ機能の使用等を許可すること。（兵庫県教育委員会特別支援教育課 HP）

## 今週のコラム ～教室環境の整備～

「特別支援教育」というと、発達障害のあるその子自身、その子一人にだけ働きかけようとする発想が根強くあります。しかし、特に通常学級においては、その子を変えようとする前に、学習環境・授業づくり・集団づくりを見直して集団力を高めることも大切です。今回は学習環境についてのチェック項目を書き出してみます。気になる子への支援が他の子にとってもよい支援となるはずですよ。

1日1回は教室を見まわす	破れた掲示物は貼りなおす
不要なものはなるべく教室に置かない	長期間貼っておくものはラミネートする
ロッカーなどはカーテンで目隠しをする	不要になった掲示物は速やかに外す
学級文庫は放課後整頓しておく	A君にうまくいったからB君にもは×
破損箇所はすみやかに修理する	クラスメイトの反応を考える
生き物の世話には気を付ける	余計な装飾はせずになるべくシンプルにする
黒板の板書スペースを確保する	学級内のルールを決める
チョークの消し跡を残さない	物や道具の定位置、戻す位置を決める
黒板周辺の掲示物はシンプルにする	片づけるタイミングを指示する
剥がれてきた掲示物は即座に貼りなおす	週末に机の中を整理させる

簡単なものばかりで直ぐに始められる内容です。教室をシンプルに、授業に関係のないものを片づけて刺激を減らすなど、集中できる空間作りから見直すのも一つの方法です。

### 平成28年度 県立和田山特別支援学校 夏期研修講座 \*本校HPにも掲載中

講座名	講師	内容	実施日
教材紹介	本校 松岡正紀	アイデアいっぱいの自作教材等を紹介	7/25
教育課程、評価	本校 古川貞之	個別の指導計画と評価について	7/25
夏期講座①、②	本校教員	後日お知らせいたします	7/26
進路基礎講座	本校 安達忠良	卒業をしたら、どんな生活が待っているのか	7/27
キャリア教育	創価大学 藤原和博氏	仮題：児童生徒が見通しをもち、わかって活動する授業づくり	8/2
夏期講座③、④	本校教員	後日お知らせいたします	8/8
平成28年度但馬地区特別支援教育公開講座	元京都市立小学校支援学級担任 村上公也氏	「笑顔、考える、つながる授業づくり」 ～目からウロコの教材・教具～ (但馬長寿の郷)	8/10
施設見学会	琴弾の丘、和生園	卒業後に利用する障害者施設を見学	8/23
夏期講座⑤、⑥	本校教員	後日お知らせいたします	8/25
子どもの睡眠障害	県立リハビリテーション中央病院 豊浦麻記子氏	子どもの睡眠障害と発達障害についての最新知見	8/29

それぞれの講座の紹介、会場、準備物、申し込み方法等については、所定の申込用紙でお願いします。

県立和田山特別支援学校 研修部 古屋 光晴 tel:079-674-0214 fax:079-674-0279

Mail:s944614@hyogo-c.ed.jp



兵庫県立和田山特別支援学校 支援部 兵庫県朝来市和田山町竹田1987-1

電話でのお問い合わせ・教育相談は TEL 079-674-0214

(センターお願いしますとお申し出ください 担当：柳本・武田まで)